

中学校・3年・社会科 学習指導案

「契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する」

日 時：平成23年10月25日（火）
場 所：阿蘇中学校 第3学年1組教室
授業者：教諭 山部 公彦

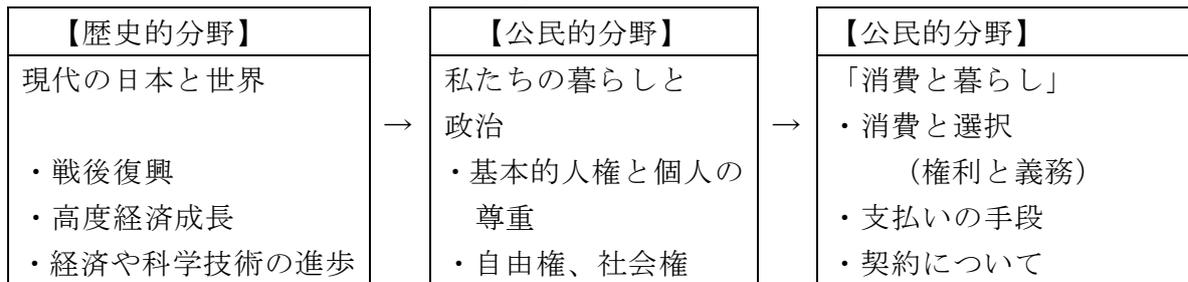
1 単元名 「暮らしを支える経済」（教育出版p90～p109）

2 単元について

(1) 本単元は、経済分野の消費と暮らし、価格、企業、金融などをおおまかにとらえ、自律した消費者、責任ある個人となるための学習を行うことのできる単元である。

私たちは毎日の生活の中で、経済活動を行っている。特に生徒たちにとっては、商品を購入したり、インターネットの活用など、ものやサービスを消費・利用する活動は身近である。その活動のなかで、限られた所得や時間、情報をもとにして価格を考慮しつつ、商品やサービスの選択を行わなければならない。大げさな情報を信じ安易な判断を行ってしまったり、将来高額な商品を購入する際の契約において、見通しのない判断をしてしまうなどのトラブルを防ぐためにも、経済活動の仕組みや契約について学ぶことは大切である。

(2) 本単元の系統は以下のとおりである。



歴史的分野において、戦後の経済復興から高度経済成長期について学習しており、公民的分野の「私たちの暮らしと現代社会」の中で、さらに具体的に経済成長に伴って所得が増加し、電化製品の普及など消費生活が豊かになったことをおさえている。憲法学習や政治の単元においても、個人の権利と義務、責任について学んでおり、これまでの学習内容も活用し、経済活動における個人の権利と義務、責任について考えていく。

(3) 生徒の実態は以下のとおりである。(在籍数25名)

本学級は、男子12名、女子13名、計25名である。男女間の仲も良く、グループ学習においてもそれぞれの意見を発表することができる。しかし、学習の定着度に差が見られ、特に男女差が大きい。そのため、女子が意見を集約していく傾向がある。男子にもより積極的な発言ができるよう支援の工夫を行わなければならない。

アンケートの結果は以下の通りである。(生徒数25名)

- ① 経済の学習に興味がある 7名 どちらでもない 12名 ない 6名
- ② 自分でお金を計画的に使うことができる。 はい 13名 いいえ 12名
- ③ 「契約」という言葉を知っている。 はい 22名 いいえ 3名
- ④ 「契約」について具体例を挙げて説明することができる。 はい 6名 いいえ 19名

- ⑤ 現在や将来、高額なものでほしいものは何か。
・携帯電話 ・スマートフォン ・自分専用のテレビ ・パソコン ・車
- ⑥ クレジットカードのしくみについて説明できる。はい 2名 いいえ 23名
- ⑦ リボ払い、ICTを使った支払い方法について知っている。 はい 0名 いいえ 25名
このアンケートから、経済分野への興味・関心について生徒間の開きが大きいたことが分かる。また、生徒の中で欲しいものも多くあり、将来高額な商品の購入をする機会も考えられる。しかし、契約という言葉は知っていても、その意味や伴う責任や義務についての知識は乏しい。本単元や本時を通して、経済分野への興味・関心の喚起や基礎基本の確実な定着を行わなければならない。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 社会科教育の観点から

- ア 身近な話題や最新のニュースなどを取り上げ、経済活動と自分たちとの生活のつながりについて具体的・意欲的に学習に取り組めるよう学習課題の工夫を行う。
- イ 自分たちにも起こりうる場面を設定し、どのような判断・行動が必要なのか、具体的に考えさせ、思考力・判断力を高めたい。また、班での学習も工夫し、自分の意見をもって話し合い活動ができるようすすめていく。
- ウ 様々な資料を使うことで、自分の判断材料としたり、班学習での根拠となる資料の提示を行う。
- エ 経済分野が、「難しい」という意識にならないよう、基本的な仕組みを確実におさえ、消費、生産、家計など将来につながる学習内容の定着を図る。

② 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「2. 法の理解と遵守」、「c4-3: 契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する」との関連を重視して展開する。
- イ 契約の基本的な仕組みについて学び、限られた所得、時間、情報の中で適切な判断を行える自律した消費者となる意識を高める。
- ウ 支払い方法についてもおさえ、特にICTの発達による様々な支払い方法が用いられるようになってきていることに気づかせ、それらの特徴や注意点なども考えさせる。
- エ 情報の活用について、その内容についての吟味や自分の情報を安易に発信しないなどの消費者としての立場からの学習もすすめたい。

③ 人権教育の視点

- ア 個での学習と班での学習の場面を大切にし、一人一人に基礎・基本の定着を図る。
- イ 意見交換や発言を大切にし、班での学習を通して、支持的風土づくりをすすめる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組み、企業の役割などを理解させる。
社会的事象への関心・意欲・態度	身近な消費生活や暮らしに関心を持ち、消費者としての自覚や経済活動について意欲的に考えようとしている。
社会的な思考・判断	具体的な事例をもとに、消費や選択、生産や金融、企業の役割について考え、判断することができる。
資料活用の技能・表現	様々な資料を活用し、具体的な例や根拠をあげながら、自分の意見などを表現することができる。

社会的事象についての知識・理解	身近な消費生活を通して、経済活動の意義を理解し、賢い消費者となるための知識や生産、金融、企業の役割などを理解することができる。
-----------------	---

4 指導・評価の計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価基準
1	1	1 暮らしをみつめて (p 90～p 91) ◆経済とは何かについて身近な生活から考え、経済の三主体について理解する。	●家計、企業、政府の三主体についておさえ、それぞれの関わりについて考えさせる。	○経済とは何かについて考え、経済の三主体についておさえることができる。 (ワークシート)
2	2 本時	2 消費と暮らし (p 92～p 93) ◆契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。 ◆様々な支払い方法を知り、それぞれの特徴や注意点について考えることができる。	●具体例をもとに、身近なことから考えさせる。	○契約についての基本的な考え方を理解し、さまざまな支払い方法についてその特徴などを考えることができる。 (ワークシート)
3	3	3 消費者の自立 (p 94～p 95) ◆さまざまな消費者問題の実態について知り、消費者の権利を守るための方法を考え、現状を知る。	●消費者問題に対してどのように取り組めばよいかを資料をもとに考察できるようにする。	○消費者をめぐる問題を理解し、消費者の権利を守るための方法を説明できる。 (ワークシート)
4	4	4 ものの価格の決め方 (p 96～p 97) ◆需要と供給から市場価格のきまり方を理解する。 ◆市場での価格の変動のグラフから市場価格を理解するとともにその他の価格があることを知る。	●商品の価格の構成を知り、需要や供給で価格が変動する市場価格について資料をもとに考察できるようにする。	○需要や供給の関係において市場価格の動きについて考えることができる。 ○具体的な野菜を取り上げ、月別の出荷量と価格のグラフから出荷量と価格の関係を読みとれる。 (ワークシート)
5	5	5 市場は万能ではない (p 98～p 99) ◆生産の集中によって起こる問題や公共料金について考え、消費者を守るための政府の役割を知る。	●市場でうまく価格が決まらない場合や市場で価格が決まっては困る場合にはどのようにして価格が決まっているのか、消費者を守るための政府	○市場でうまく価格が決まらない場合や市場で価格が決まっては困る場合にはどのようにして価格が決まっているのか、消費者を守るための政府の役割に気づくことができる。

			の役割に気づかせる。	(ワークシート)
6	6	6 企業はさまざま (p 100～p 101) ◆企業のはたらきと流通のしくみについて理解する。	●生産が企業を中心に行われていることについて理解するとともに、流通の役割に気づかせる。	○企業のはたらきと流通の仕組みについて理解することができる。 (ワークシート)
7	7	7 会社のしくみと役割 (p 102～103) ◆最近の企業に関する資料を取り上げて、企業の種類・しくみとその社会的役割について理解する。	●社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる。	○企業にはその経済活動が及ぼす社会的影響に対して公共の利益に配慮する社会的責任があることについて、多面的・多角的に考察している。
8	8	8 資金の貸し借り (p 104～p 105) ◆金融のはたらきや業務を具体的な例を通して考える。	●家計の貯蓄などが企業の生産活動や生活の資金として円滑に循環するために金融機関が仲立ちをしていることを知る。	○経済活動における銀行の役割が理解できる。
9	9	9 変わる産業 (p 106～p 107) ◆産業を分類するとともに、産業の高度化について知る。 ◆現代日本の産業の特色を知る。	●産業構造の変化による国民の生活への影響を知る。	○産業構造の変化による国民生活への影響を考察することができる。 ○産業別に見た就業者数の割合の変化のグラフなどから経済のサービス化・経済のソフト化が産業構造を変化させてきたことを読みとることができる。
10	10	10 資源をむだなく (p 108～p 109) ◆自分たちの地域における環境保全の取り組みを調べる。	●身近な地域を調べることを通して、地域の取り組みの素晴らしさや工夫点に気づかせる。	○身近な地域の取組からその良い点や工夫点を考察している。(レポート用紙)

5 本時の学習 (2 / 10 時間)

(1) 目標

契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。

様々な支払い方法を知り、それぞれの特徴や注意点について考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問と生徒の反応	教師の指導と評価	備考
導入	8	① 携帯電話を利用した商品の購入やサービスの利用について考える。	○携帯電話を使って、商品を購入したり、様々なサービスを利用した経験はあるかな。 ・経験がある。 ・サービスを利用したことはある。	・身近な経験の中で、ものを買入したり、「契約」との関わりがあることについて考えさせる。	
展開	5	② 契約について基本的な考え方を知る。	○「契約」とは何だろう。	・導入の内容も生かしながら、契約の基本的な考え方についておさえる。	
	20	③ 様々なケースをもとに、契約が「成立するもの」として「しないもの」について考える。 ④ 個人や班で考え、発表を行う。	○では、様々なケースを例に、「 契約が成立するもの と しないもの 」を考え、その理由もあげてみよう。	・身近な例や判断に迷うケースをもとに、「契約」の内容を検討させる。	
展開	10	⑤ 契約が成立するものを整理し、次に支払いなどの責任があることについておさえる。	○契約が成立するものとその後の責任について考えよう。 ・現金払い ・ローン ・リボ払い	・契約成立についておさえるとともに、その後の支払い方法について知っている知識も確認しながら、それぞれの特徴と注意点を考えさせる。 評価 契約についての基本的な考え方を理解し、さまざまな支払い方法についてその特徴などを考えることができる。 (ワークシート・発言)	
終末	7	⑦ 本時の学習のまとめを行う。 ・契約について ・支払い方法について ・消費者としての自分たちに必要なことについて	・基本的な考え方を身に付けることが必要なんだ。 ・様々な支払い方法を知り、その特徴を理解した上で上手に使っていきたい。	・契約の基本的な考え方を理解した上で、豊かな生活を広げていく方法として、様々な支払い方法を活用する良さや注意点について確認する。 ・情報モラル教育の視点についてもおさえる。	

6 モデルカリキュラムの位置づけ

	道徳、各教科・特別活動 他
a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。	学活 「望ましい生活習慣」 一日の生活時間を見直すとともに、携帯電話やメールの利用についても考える。
b 4-1：個人の権利・人格権・肖像権などを尊重する。	道徳 「ドナーカード」生命の尊さ 3－（1）生命の尊さを考えるとともに、臓器移植に関わる個人の意思の尊重、家族の意思の尊重など個人の権利、人格権についても考える。 道徳 「二通の手紙」規則の意義 4－（2）社会の秩序と規律について考える。
b 4-2：著作権などの知的財産権を尊重する。	技術【関連】技：TRY「著作物の利用の仕方」知的財産権
c 4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だと分かると行動は絶対に行わない。	社会 「移り変わる社会」 高度経済成長期以降の現代社会の変化を理解し、その変化への対応や必要な知識について考える。 道徳 「ウサギ」思慮深い判断と責任 1－（3）自主的に判断、行動するだけでなく、その行為が及ぼす結果についても考え、行動できる態度を育成する。
c 4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。	社会 「社会の発展と新しい人権」 知る権利とプライバシーの権利との関連を考える。
c 4-3：契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。	社会 「消費と暮らし」暮らしを支える経済 契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。様々な支払方法を知り、それぞれの特徴や注意点について考える。（本時）
d 4-2：トラブルに遭遇したとき主体的に解決をを図る方法を知る。	社会 「消費者の権利と保護」 消費者問題について考える。 家庭 「私たちの消費と環境」 悪徳商法などのさまざまなトラブルについて理解し、その対処法を知る。
e 4-1：情報の信頼性を吟味できる。	総合的な学習の時間 「体験活動のまとめと発表」 体験をまとめ、解説資料などの情報を正しく伝える。
f 4-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる。	国語【関連】「メディア社会を生きる」 メディア社会やメディアの働きに関心を持つ。
g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。	技術 「情報社会と私たちの責任」 情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する。	技術 「情報社会と私たちの責任」 情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。